

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもさぼーとセンター きらめき北谷		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団グループ療育(5～7名)に対し、職員4～5名で丁寧な対応、時には個別対応も取れるよう活動計画、運営することにより集団の中でも個々の発達段階やペース、ニーズに合わせながら活動プログラムの提供ができる。	こどもたちが意欲的に参加できるような活動プログラムの企画、実施。運動プログラム、集団あそび(ルール理解やコミュニケーション)などを通して楽しみながら生活する力を育めるよう支援している。	こども達が主体となってやりたい活動の企画、準備、運営ができるような環境、サポート体制の検討、工夫を行なっていきたい。
2	児童指導員、保育士、理学療法士、言語聴覚士とさまざまな専門職の連携のもと療育の提供ができる。	療育の振り返りを行ないながら、子供達が楽しく意欲的に参加、取り組めるよう環境設定や活動の工夫を行なっている。	療育内容やこども個々の理解に関わる会議の場や勉強会の定着を図っていきたい。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスを行っていないため、通所に関しては保護者の皆さまのご理解とご協力を得ている。	送迎に対応できる人員の配置が難しいこと。離れた地域から通所してくれている児童はより難しくなる。	保護者の皆さまのご協力を得ながら、要望に応じて利用日の振替を行ったり、送迎サポートの方法を(地域資源の活用など)、通所しやすい工夫の検討を行なっていく。
2	利用時間について、放課後の限られた時間の中でプログラムの提供、丁寧な支援を行うことの難しさを感じる時がある。また、多くの利用希望者に問い合わせをいただいているが、受け入れ案内が難しく、長い期間利用を待っていただいている現状がある。	サービス提供時間や方法を幅広く検討、対応していくための工夫や人員配置、活動スペースの確保。	人員の確保、サービス提供日の増、利用いただいているこどもたちのステップとゴール設定を明確にすることで地域参加、地域移行を目指す工夫を行なっていく。
3			